

2019 年度

中国留学報告書

留学先：北京師範大学

留学期間：8月26日（月）～12月28日（土）

新潟国際情報大学
国際学部 国際文化学科
学籍番号：21018042
坂井亜美

目次

1	研修先及び実習期間	3
2	研修先概要	3
3	研修目的	3
4	研修内容	4
	4-1 研修のスケジュール	4
	4-2 研修の詳細	5
5	所感	6
6	おわりに	7
	謝辞	7

付録

研修日誌	8
------------	---

1 留学先及び実習期間

留学先：北京師範大学 漢語文化学院

研修期間：令和元年8月26日（月）～12月28日（土）…125日間

※12月28日、帰国

2 留学先概要

(1) 大学について

北京師範大学は中国の首都である北京に位置している。1902年に創立され、100年以上の歴史を誇る本校は、北京大学、清華大学、中国人民大学とともに北京四大大学の1つとして称されている。2万3000人以上もの在学生をかかえる本大学の敷地内には体育館、バスケットコート、テニスコート、競技場、プールなど多くの施設が完備されている他、寮も併設されているため、多数の在学生が生活を送っている。加えて、食堂の数も5、6ほどあるため、本場の中華料理はもちろんのこと、日本、韓国、アメリカなど、様々な国の料理を楽しむことが出来る。

(2) 教育面

世界各国から多くの留学生を受け入れていることが特徴として挙げられる北京師範大学の授業は、1クラス20人未満と少人数で行われるため、一人ひとりが教員と接する時間が比較的多く、質の高い授業を受けることが出来る。留学生は学期初めに中国語の習得レベルを図るテストを行い、その結果に応じてクラスが細かく分けられる。そのため、自分のレベルにあった環境の下で学ぶことが出来る。また、中間テスト終了後には、中国の食文化や歴史に触れることを目的とした1週間の研修旅行が計画されているため、異文化を実際に肌で感じる事が出来る。

3 留学の目的

今回の留学の目的は、中国語のレベルを向上させることである。具体的には、単語力をつけること、簡単な日常の会話を聞き取れるようになること、HSK4級の取得である。大学1年の後期から学び始めた中国語を2年半で会得し、就職活動の際の自身の武器とするには、普段大学で学んでいる週3回の授業と自主学習だけでは同年代で中国語を専攻している他大学の学生より劣ってしまうのではないかと考えた。

実際に中国に赴き、目につく文字、耳にする単語が全て中国語であるという状況下に4か月間身を置き、現地の人と触れ合い、「耳を中国語に慣らす」ことを目標に、今回の留学に挑んだ。

4-1 研修のスケジュール

研修期間中のスケジュールは以下のとおりである

月	日（曜日）	午前	午後
---	-------	----	----

8	26 (月)		到着、入寮
	27 (火)	携帯電話購入、銀行口座開設	
	28 (水)	入学手続き	
	29 (木)	クラス分けテスト	
	30 (金)	入学式	
	31 (土)	各グループ、出し物の練習	クラス発表
9	1 (日)	テキスト購入	
	2 (月)	授業開始	
	14 (土)		日中交流会
10	3日(木)～ 5日(土)	内モンゴル旅行	
	31日(木)	中間テスト	
11	1日(金)	中間テスト	
	3日(日)～ 9日(土)	研修旅行 安徽	
	16日(土)	HSK 試験	
12	2日(土)	HSK 試験	
	15日(日)		北京の夜
	23日(月)	期末テスト	
	24日(火)	期末テスト	
	27日(金)		卒業式
	28日(土)		帰国

4-2 留学の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

1) 入学手続き

入学にあたり必要な書類（パスポート、保険証類）を提出し、学生証・学生カード（学内の施設利用時に使用）を発行してもらう。

2) クラス分けテスト

現時点での自身の中国語のレベルを図るためのテスト。ライティング・リスニング・スピーキングのテストをそれぞれ行う。難易度は高め。

3) 入学式

9月に入学する留学生のための入学式。先生、代表の生徒の挨拶の他、学内の規則について説明を受ける。式典は2時間ほどで、今年度の国情生は私服で出席した。

4) クラス発表

テストの結果をもとに、自身のレベルにあったクラスに配属される。

5) テキスト購入

自身のクラスで必要となるテキストをそれぞれ購入。

6) 日中交流会

北京師範大学の日本語専攻の本科生との交流会。事前に準備を進めていた出し物をここで披露する。自己紹介やフリートークの時間も設けられているため、積極的に自分をPRすると良い。また、毎日の授業には当然、中国人の学生はいないため、この場が中国人の友達をつくる唯一の機会である。

7) 内モンゴル旅行（希望者のみ）

セメスターの変わり目は1週間ほど授業が行われないため、この休みを利用して希望者は内モンゴルに旅行に行くことが可能。このツアーの主催者は北京師範大学ではないため、同意書が必要となる。日本語ガイド付きのツアーであるため、安心して参加できる。

8) 中間・期末テスト

2日間にわたって、ライティングのテストを2つ、リスニングのテストを1つ受ける。毎日の授業の復習を真面目にこなしていれば、高得点を狙える。

9) HSK 試験

現地で HSK の試験を受けることが可能。しかし、インターネットでの申し込みや合格証明書の発送の手続き等は少々手間がかかるため、国情生同士、或いは先輩に相談をし、早めに行動することが大切である。また、中国のネットショッピングサイトである淘宝で過去問題集も安値で手に入れることが出来るため、対策してから臨むと尚良い。

10) 研修旅行

行き先は中国・安徽。期間は1週間。伝統的な街並み、建造物を見て回れるほか、地元中学生との交流も楽しむことが出来る。

11) 北京の夜

北京師範大学の一大イベント。各国の留学生が自国の歌や踊りを披露する。日本の大学の学園祭とは規模が異なり、とても大きな会場で行われ、圧巻のステージパフォーマンスの連続である。留学生は無料でチケットを手に入れることが出来るため、観覧することをお勧めする。

5 目的・目標の達成

上記にも記したとおり、私の今回の留学の目的は中国語のレベルを向上させることであった。中国での4か月間の留学生生活を終えて、この目的は確実に達成できたと思う。大学でのクラスは事前に行われた試験の結果をもとに編成されているが、クラスメイトの中国語のレベルはとても高く、初日から圧倒された。「自分はこのクラスの授業についていくことができるようになるのか」と不安に思う日もあったが、周りのレベルの高さは何より私に「やらなければ」という使命感を与えてくれた。そんな周りから受ける刺激のおかげで、授業の予習・復習、更には自主学習を進んで行う癖がつき、その甲斐もあって HSK の阅读（ライティング）のパートでは 100 点をとることが出来た。この経験は私に、努力が結果として表れた喜びだけでなく、「もっと上へ」という向上心をも与えてくれた。

6 反省・課題

反省点としては、携帯の翻訳機に頼ってしまう場面がいくつかあったことだ。中国人はとにかく話すスピードが早く、耳が慣れてきた 10 月、11 月頃でも、相手の質問を聞き取れないことへの焦りからこういった行動をとってしまっていた。帰国した今、現地の人の話すスピードに慣れることはおろか、中国語を忘れないようにすることさえも難しいが、せめて中国語の字幕付きの映画を観る・リスニングの CD を聞くようにするなどして、日々の生活でも積極的に中国に触れていきたい。

謝辞

今回、北京師範大学に留学するにあたり、大学や寮の手続きに尽力して下さった區建英先生、佐藤若菜先生をはじめ、北京での生活のサポートをして下さった羅穎さん、ビザ、海外保険の手続きをすべてこなして下さった学務課の方々、その他大勢の関係者の皆様のおかげで 125 日間の留学を無事、成功に終えることが出来ました。感謝申し上げます。また、新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、中国への派遣留学に参加でき、価値ある体験ができたこと、心より感謝いたします。

付録：留学日誌

8月26日（月）午後
集合場所 新潟空港 集合時間 12:00
引率 佐藤若菜先生
内容 ・新潟空港にて先生と合流 ・新潟空港から成田空港まで飛行機で移動（14:05 発、15:20 着） ・成田空港から北京空港まで飛行機で移動（18:20 発、21:20 着） ・空港から北京師範大学までバスで移動

移動の所感

移動はすべて飛行機で、フライト時間も比較的短めではあったが、様々な手続き、登録をこなさなければならなかったため、やはり初日は疲れを覚えた。

8月27日（火）
携帯電話購入、銀行口座開設
引率 佐藤若菜先生、罗颖さん
内容 ・学内にある携帯ショップにて携帯電話を購入 ・銀行に行き、口座を開設

内容

中国で名高いメーカー、Huawei の携帯電話を購入。今日、中国での支払いは電子マネーが主流のため、銀行で口座を開設したのち、携帯電話と連結させた。

8月28日（水）
午前：銀行口座開設 午後：入学手続き
場所 留学生办公室
内容 ・銀行に行き、口座を開設 ・入学にあたり必要な登録、手続き

入学手続き時の所感

国情生同士で協力をし、入学の手続きを行った。中国語で質問をされる場面もあるが、北京師範大学に在学している日本人の学生もそばにいるため、分からないことがあれば随

時サポートしてくれる。

8月29日(木)
クラス分けテスト
場所 教二楼
内容 ライティング・リスニング・スピーキングのテスト

テストの所感

いずれのテストもみな、難易度高め。ライティングのテストは知っている漢字から意味を推測してかろうじて解答することができたが、リスニングの音声、スピーキングテストの試験官の話すスピードの速さに圧倒され、自身の中国語のレベルの低さにとても焦りを感じた。

9月2日(月)
授業開始
授業内容 <ul style="list-style-type: none">・文法・会話・リスニングの授業が週に3回ずつ・中華才芸(書道、切り絵、太極拳、茶道)が週に1回ずつ・1日にある授業数は1~3コマ

内容および所感

クラスは少人数で編成されているため、1日1回は必ず先生にかけられていた。最初のうちは自分が何を聞かれているのかさえも理解できず、もどかしく、悔しい日々が続いた。私のクラスは週5日間とも午後に授業がなかったため、最初の1か月間、午後は毎日授業の復習に励んだ。その甲斐もあって、先生の話している内容、クラスメイトの言うジョークが少しずつ分かるようになってきたなど実感したときはやはり達成感を覚えた。

9月14日(土)
日中交流会
場所 主楼
内容 <ul style="list-style-type: none">・各自事前に準備を進めていた出し物の披露・自己紹介・フリートーク

交流会の所感

北京師範大学日本語専攻の本科生は、日本のアイドル、ドラマ、アニメに興味を持っている人が多い。そのため、上記の分野について、自分の回答も用意しておくと話が広がる。交流会をきっかけに友達になった中国人の学生とは、一緒にご飯を食べたり、互いに分からないことを WeChat で質問しあえたりしていたので、この場は自分の交流の幅を広げる良い機会だと思う。

10月31日(木) 11月1日(金)、12月23日(月) 24日(火)
中間、期末テスト
内容 ・ライティング、リスニング、スピーキングのテスト

内容および所感

比較的易しい問題が多かったように感じる。前述のとおり、毎日の復習を欠かさず行っていれば、高得点も狙える。スピーキングのテストも、課題として出される中国語の作文をきちんと自分の力でこなせば、テスト前に時間を割かなくとも、自然と問題に答えられる力がつく。

11月16日(土) / 12月2日(土)
HSK 試験
場所 北京语言大学

内容および所感

4級は普段授業で取り扱っている教科書のレベルであるため、授業を真面目に受けていれば合格することが出来る。それでも心配な場合は中国語のネットショッピングサイト、淘宝で過去問題集も安く手に入れることが出来る。新潟は HSK の会場に指定されることが稀であり、都市部に試験を受けに行かなければならないケースが殆どであるため、この機会に現地で受験することを勧める。

11月3日(日) ~9日(土)
研修旅行
場所 安徽
内容 ・寝台列車で安徽まで移動(移動に1日かかる) ・歴史的建造物の見学 ・地元中学生との交流 ・景勝地、黄山に登る

内容および所感

安徽の地では多くの歴史的建造物を見学した。北京より空気が澄んでいたということもあり、どこか日本らしさを感じ、母国が恋しくなる5日間であった。景勝地である・黄山から眺める景色は美しく、壮大で山登りの疲れを忘れさせてくれるものであった。

12月28日

帰国（19時半頃日本到着）

内容

- ・朝5時頃寮のロビーに集合
- ・ルームキーの返却、部屋のチェックを受けた後、入寮時に支払ったデポジットを返してもら
- ・罗颖さん引率のもと、北京空港までバスで移動
- ・北京空港から成田空港まで飛行機で移動
- ・成田空港にて入国審査、手荷物受け取り
- ・成田空港から新潟空港まで飛行機で移動
- ・新潟空港にて解散

移動の所感

団長、副団長の指示を中心に、自分たちだけで飛行機の乗り継ぎや入国審査を受けなければならなかったが、何とかこなすことができた。行きの便では先生から離れないように付いていただけの私たちであったが、中国での4か月の生活を通して、「自立」という面でも一人ひとりが成長を遂げたように感じた。



内モンゴルでの食事



ゴンドラ (内モンゴル)



万里の長城



黄山（安徽）



天安門